31st March 2022

畿央大学 看護実践研究センター Newsletter Vol.3

CONTENTS

・看護実践研究センター長挨拶　看護実践研究センター長　山崎　尚美
・＜各部門の事業報告や次年度の抱負・トピックス＞
　認知症ケア部門/卒後教育部門/地域包括ケア部門

看護実践研究センター長　挨拶

看護実践研究センター長・看護医療学科　教授　山崎　尚美

今回のニュースレターは,発刊第 3 号として,2021 年度の事業報告を掲載いたします。2020 年 4 月 7 日に新型コロナウイルス感染症緊急事態宣言が宣言され,約 2 年間は COVID-19 の感染とともにまさに”With コロナ”という状況下にあり,看護実践を提供している現場も感染予防対策とともにセミナーへの参加や研究活動を遂行することは悪戦苦闘な毎日であったと推測いたします。

しかし,そのような状況下において,本 センターにおきましても開設 3年目は感染予防対策をしつつ多大な制限のあるなかでの研究活動となりました。

看護実践研究センターは,『看護実践研究に関する研究基盤形成および 次世代の人材育成』をコンセプトとしています。そして,現在は認知症ケア部門,地域包括ケア部門,卒後教育部門を中心に,保健,医療または看護を専門とする職業人および研究者に対して,最 新の看護実践に関する情報を提供し,看護実践研究を推進しています。

今年度は,前年度に続きオンラインを活用したハイブリット型セミナーの開催や看護系学会開催の後援活動を行ってきました。今まで実施できなかったことも,このコロナ禍においてオンライン下で可能になったこともたくさんありますし,できなかったことのすべてを COVID-19 のせいにするのではなく,制限のある中で限られた制約のもとで活動できたことは「ケアを止めない」ことケアを継

続することは「新しいケア様式の確立」につながっていくことと実感しています。

2020 年度から 2021 年度は「次の時代に適応するための充電期間」として捉え,新しい生活様式ならず,「新しい教育様式」「新しい研究様式」「新しいケア様式」を開発すべく,
次年度に向けて研究活動を展開したいと考えています。 そのためには,部門の再編成を視野にいれつつ新部門の設置も検討課題としていきます。最後に,これからのセンターの運営・活動へのご支援を賜りますとともに,センターの活用していただき,活発な看護実践および研究活動が行われることでさらなるセンターの発展が図れますよう,今後ともよろしくお願い申し上げます。

各部門の事業報告や来年度の抱負・トピックス

認知症ケア部門　部門長：看護医療学科　教授　山崎 尚美　副部門長：看護医療学科　准教授　上仲 久

認知症部門では,認知症ケア専門士などの看護職・介護職に対する研修会を奈良県認知症ケア専門士会と共に 4 月(Web セミナー)1 回と 1 月～2 月(Web 研修会)を 3 回開催しました。今年度も Zoom 活用してセミナーを実施しました。

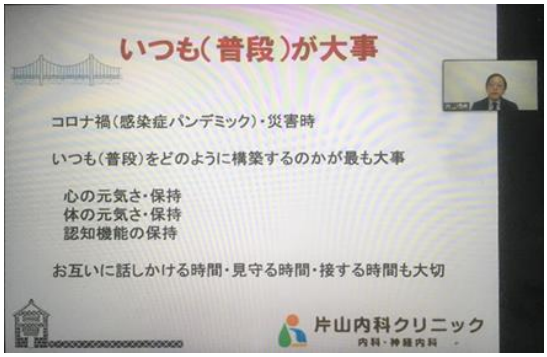
■ 2021 年 4 月 1 8 日(土) 13:30-16:40
　オンラインセミナー（Zoom）

第 5 回講演会「コロナ禍における認知症ケア」

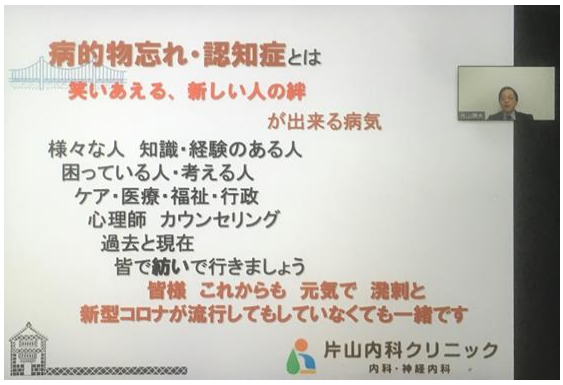
講師：片山内科クリニック院長　片山貞夫氏

当初は開催地と遠隔参加を合わせたハイブリッド形式として計画しましたが,感染拡大が急増の社会状況から,リモートのみでのオンライン開催に変更になりました。参加者は 43 名の参加があり,受講者は筑波市,岐阜県,関西県はもとより,広島県,熊本県,遠くは海外(台北市)からの参加がありました。この研修会は奈良県認知症ケア専門士会との共催で実現したもので,認知症ケア専門士の認定単位(2 単位)としても認定された研修会でした。

冒頭,看護実施研究センター長(奈良県専門士会の会長)の山崎から高齢者ケアの実情とこれから進むべき方向性を伝え,講師の岡山県倉敷市の片山内科クリニックの院長,片山貞夫氏の講義と進みました。コロナの蔓延防止のため私たちの身の回りでは“あれダメこれダメ”“こうしてくださいああしてください”ということが毎日のように報道され日常生活でも少なからず,ストレスに感じるような状況でもありますが,片山先生は,このようなコロナ禍の中でも,**「いつもと変わりがないこと大事だ」**と首尾一貫してご講演いただきました。決して,コロナの対策をせずに過ごすという意味ではありません。伝えたいことは,認知症ケアに大事なものはコロナであってもなくても変わりないということでした。



例えば,BBQ がダメということではなく,その BBQ の取り組み方に問題があるわけで,顔や距離を過ぎていないか,料理遊具の使いまわししていないかなどコロナの蔓延につながることが無いかを見極めて対策することが必要であり,ケアをする側が当事者にさせるとう意識にならずに,一緒に実施することが重要であることを解説していただきました。



また,新たに時代は,認知症に関わる地域の話に,遠隔地から参加できる状況をつくりだし,新たな人の輪を広げることもできるという可能性があること,アルツハイマー型認知症やレビー小体型認知症などに関連するアミロイド β やタウ蛋白質の蓄積を,点滴で治療できる時代が近いこと,「アップルタグ®」といった物忘れで探し物をしている方のために,タグをつけて音で場所を知らせる用具の開発や,エーザイとバイオジェン社の合同開発として,認知症の治療薬「アデュカヌマブ®」の開発が進んでいること,といった認知症になったとしても安心して生活できるような情報提供を得ました。

講演の後は,いくつかのブレイクアウトルームにて,少人数に分かれて感想や日ごろの思いを吐露する場をもち,受講者は「コロナ禍をすすんできたが日々の気づかずにしているケアへの振り返りがいかに重要かが良くわかったとなどの仕事への思いを新たに終了いたしました。

■ 2022 年 1 月 13 日(木) 10:30-12:00
オンラインセミナー（Zoom）
「VR 認知症オンライン体験」
講師：奈良県認知症ケア専門士会
株式会社シルバーウッド

動画を視聴した後に数人のグループに分かれ,①どのような経験をしたか,②どのような気持ちになったか③他の人のかかわりをどう思ったかなどについてディスカッションをする参加型体験研修でした。

普段よく見かける光景ですが,動画による本人の目線では,高いビルの上にいて恐怖や不安を感じている様子が受講者は体験でき,「認知症の人は,空間失認障害などがある場合も多く,本人は降りるのが怖いことから介助者の手を振り払ったり,拒否するなどの行動をとっており,それがスタッフにとっては介護拒否や暴言・暴力とうつることもある」と解説されていました。「コミュニケーション不良により,BPSD がおこることもある」と言われていましたが,当事者が疎外感を持たないようなかかわりの難しさを学習しています今回の研修で,認知症の方の症状や基本的な対応方法についてわかっているつもりでしたが,本人の立場に立ってその思いを理解できていないままで支援していることも多いと学習していました。受講者は,支援者主体の支援ではなく,本人の不安や思いに沿った援助となるようあらゆる視点から推察していくこと

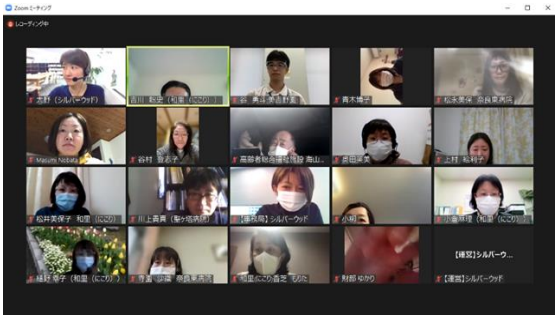
の必要性を改めて実感されていました。

■ 2021 年 2 月 1 日(火)13:30～16:30
一人称体験プロジェクト　高齢者住まい看取り研修会

2021 年 2 月 1 日（火）に畿央大学看護実践センターと奈良県認知症ケア専門士会の共催で,「一人称体験プロジェクト　高齢者住まい看取り研修」を開催しました

コロナ禍のため集合研修が中止となり,残念ながら VR ゴーグルの活用はできませんでしたが,オンライン（Zoom）上で VR の映像を視聴しました。参加者は,介護福祉士,看護師をはじめとする 17 名の参加となりました。

内容は VR を活用したケースメソッド方式を軸に,90 歳の高齢者の視点で救急医療を疑似体験し,介護職の視点で実際に起きた看取りの事例を疑似体験して,その後にディスカッションするというものでした。看取りまでのあらゆる事態に適した最善策について,「自分だったらどうするか」「本人視点ならどうか」といった姿勢で体験者自身の考えや気づきを促す内容でした。



看取りを経験したことがない人は,看取りに対して「得体のしれない不安感・恐怖感」を抱えていることが多く,映像で本人や介護職の視点から疑似体験し,ディスカッションすることで,漠然とした不安感や恐怖感が,自分自身やチームの課題化につながった研修会でした。

日本人の死亡場所の 8 割は病院です。医療機関では看取り期においても栄養や水分を補う点滴などの医療処置が必ずと言っていいほど行われており,病院で行われる医療には苦痛や煩わしさを伴うものも多く,高齢者住まいにおける自然な老衰死という新たな選択肢を求める声も少なくありません。「老いのプロセスを病にすり替えない」ためにも,無益な延命医療を行わない本人主体の看取りは地域社会のニーズとも言い換えられます。

高齢者住まいにおける看取りとは,本人の意思や希望を確認し,家族や専門職はその意思を徹底的に支えることが重要であることを受講者は再認識していました。

■ 2021 年 2 月 21 日(月)14:00～16:15
発達障害一人称体験プロジェクト研修会実施

2022 年度の抱負

2022 年度は,引き続き「With コロナ・After コロナ禍におけるケアの確立」の構築のためのセミナーの継続やコロナ禍において疲弊した「高齢者ケア施設で働く看護・介護職のメンタルヘルスケア」に関する研修会の実施を企画しています。

卒後教育部門　部門長：看護医療学科　教授　山本 裕子　副部門長：看護医療学科　准教授　林田 麗

看護専門職では生涯にわたる教育が不可欠です。卒後教育部門はさまざまな現場で活躍する看護医療学科卒業生たちが最先端の知識・技術を習得するための機会を提供すべく活動します。

■ 2021 年 5 月 23 日（日）14：00～15：30
第 3 回卒後教育研修会「コロナ禍の看護の現状～やさしさをチカラに変える　現場の声から～」（オンライン（Zoom）開催）

講師：乾文乃さん（看護医療学科 7 期生）

2021 年度の卒後教育研修は新型コロナウィルス感染症専用病棟で勤務する看護医療学科 7 期生の乾文乃さんを講師としてお招きし，新型コロナウィルス感染症患者さんのケアに携わっている現状についてお話しいただきました。新型コロナウィルス感染症患者さんに対する看護のリアルな話は,参加者の胸に刺さるものでした。と同時に卒業生の活躍を頼もしく感じました。

講演に続いて,乾さんと林田准教授（看護医療学科／看護実践研究センター）とのディスカッションにより,講演内容をさらに深めていきました。そして,参加者の方々からも Zoom のチャット機能を使用して,リアルタイムで質問や感想が寄せられ,コロナ禍の看護について共有し,これからの看護に求められているものを一緒に考え,中身の濃い研修会となりました。

参加者の皆様からは「看護の力をフル稼働しながら頑張っていることを共有できたことは,大変よかった」「煩雑な業務の中でもお一人お ひとりと大切に向き合っている様子が伝わり,大変感動した」など良い評価をいただきました。貴重なお話をしてくださいました乾さんに感謝申し上げます。

なお,本研修会は畿桜会総会と同日の午後に開催します。2022 年度は 5 月 22 日（日）14：30～16：00「「臨床判断力を高める」をテーマに研修会を開催する予定です。対面での開催を計画していますが,状況に応じてハイブリッド,もしくはオンライン開催に変更することもあります。詳細は追ってお知らせいたします。多くの教職員,卒業生の皆さまのご協力,ご参加をお願いいたします。

地域包括ケア部門　　部門長：看護医療学科　教授　松本 泉美

■ 2021 年 10 月 23 日(土)14:00～15:30
がんカフェ開催

昨年は,COVID-19 の影響で畿央祭ウェルカムキャンパスが中止となりましたが,今年は Web での開催として広陵町がん予防推進員である西村様,小長様,植村様 3 名の方々をスピーカーにお招きしました。がん予防推進員の皆様は,がん検診やがん予防に関する情報発信,生活習慣病予防などの健康意識向上のための活動を積極的に行われています。地域の吸い殻拾いなど地道な活動を長年続けておられ,言葉だけでなく行動として示されることで,地域住民にとっても,健康を守る大切さについて考えるきっかけとなっているのではと感じました。そして,それぞれがん罹患経験を持っておられ,その体験談では,がんと診断されて頭の中が真っ白になったことや,家族や周囲の人々からの支えが力となったこと,がん検診による早期発見・早期治療の重要性,がんについて正しい知識を持つことの重要性について語ってくださいました。その中で,がん体験をとおして家族との絆を実感され「自分の身体は自分だけのものでありません」と語られたお言葉が,とても重く胸に響きました。

最後に本学教員である中西講師からは,乳がんの手術を受けた看護者としての経験から,乳がん術後入浴着の開発に関わった思いや商品化までの経緯を紹介しました。

「がん」は,自分自身や身近な人が診断されるまでは,どこか他人ごとのように受け止めてしまいがちですが,自分のためだけでなく,周囲の大切な人を悲しませないためにも,積極的にがん検診を受けていただきたいというがん予防推進員の皆様や教員の思いが伝わる機会となりました。

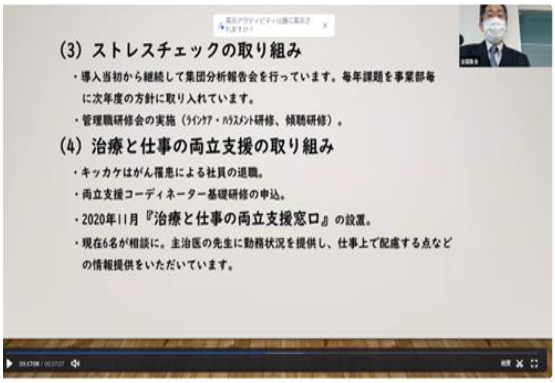
開催決定までの期間が短かったため,10 名ほどの参加でしたが,今後のがんカフェにつながるものと確信しています。ご協力頂きました皆様に感謝申し上げます。

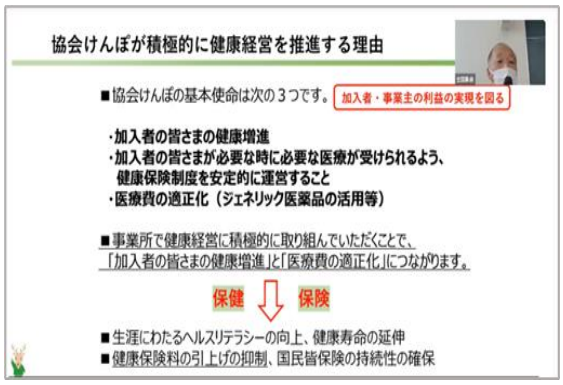
■ 2021 年 11 月 27 日(土)10：00～16：30
日本産業衛生学会中小企業安全衛生研究会第55 回全国集会（看護実践研究センター後援）
会場：畿央大学（Online ハイブリット開催）

55 回目の本研究会を初めて奈良で開催しました。コロナ禍で経営継続に多大な影響を受けやすい中小企業で働く労働者の健康の維持増進を企業理念に掲げる「健康経営」に焦点を当て,テーマを「コロナ禍における中小企業の未来を築く健康支援の連携」として,コロナ禍における中小企業の治療と仕事の両立支援の現状と課題に関する特別報告（畿央大学松本）,健康経営サポートの実際を紹介した特別講演（協会けんぽ奈良支部長　河田光央様）,健康経営を推進している事業場担当者,健康支援を展開している産業保健総合支援センター保健師,地域窓口コーディネーター,協会けんぽ保健師をシンポジストとしたシンポジウムを開催しました。特別講演では,協会けんぽ奈良支部による約 18 千の加入事業所に対する「健康経営」支援事業として,「職場まるごと健康宣言」事業や事業所カルテの活用等,事業所の状況に応じた健康課題対応への取り組みが紹介されました。

またシンポジウムでは,健康経営に取り組むことで事業所からは,コミュニケーションの活性化やメンタルヘルス課題への早期対応,離職者の減少など効果が感じられること,健康支援機関からは対象事業所へ訪問することで事業主に疾病保有労働者の早期受診の必要性を理解してもらい,重症化（休業）防止につながったことや,コロナ禍で訪問が困難な場合には Web 面談を活用するなどの工夫が紹介され,事業主と関係機関の連携の重要性が明確になりました。会場参加 17 名,Web 申し込み 54 名と本会としては盛況となりました。

ご協力頂きました関係機関の皆様,後援を頂いた看護実践研究センターに感謝申し上げます。





2022 年度の計画と抱負

①研修計画：

テーマ：障害者と家族が安心して暮らせる地域づくり

内容：地域包括ケアシステム活動を展開している地域包括支援センターや訪問看護ステーション等の機関の活動から,当事者と家族が安心して暮らせる地域づくりに必要な連携について考える機会として計画します。

日程,講師おび講義内容は未定

②継続事業：がんカフェの実施

部門員を増加して,より充実した,また地域や関係する人材に貢献できる活動を推進していきたいと思います。